

団体名	熊本留学生交流推進会議							
事業名	留学生相互及び日本人学生や地域との交流並びにグローバル教育の推進事業							
実施期間	平成30年5月27日～12月8日							
場 所	熊本大学、熊本市国際交流会館、国立阿蘇青少年交流の家							
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ	大学関係者	来場者等	合計
	252	26	240	23	72	41	36	690名

<実施内容>

1. ウェルカムパーティ(春)(秋)
4月入学及び10月入学の新入留学生を歓迎するため、5月27日と10月20日に熊本大学工学部百周年記念館及び熊本大学グローバル教育カレッジにおいてウェルカムパーティを実施しました。春のパーティーでは県内大学生で構成されたサークルによる「よさこい」の演舞が披露され会場全体が盛り上がりました。県内の他大学に所属する留学生や日本人学生と交流を深めました。
2. 留学生・日本人学生交流キャンプ
・国際ボランティアワークキャンプ
第13回目となる国際ボランティアワークキャンプは、8月11日～13日に国立阿蘇青少年交流の家を会場として、「可能性 ～創ろう みんなの未来～」をテーマに実施しました。
キャンプは、高校生121名、外国人留学生14人、日本人学生5人、関係者19名、計159名が参加し、興梠 寛 氏の基調講演に始まり、キャンプファイヤーでの全体交流会、「児童労働～Child labor～」 「情報リテラシー」 「自己表現」 「社会福祉～障がい～」 「平和」 「多文化共生」 「減災」の7つのテーマに分かれての分科会活動、分科会全体報告会を行いました。
・グローバルワークキャンプ
第6回目となるグローバルワークキャンプは、8月20日～23日に国立阿蘇青少年交流の家を会場として、「Let's create our future」をテーマに実施しました。
キャンプは、外国人留学生25名、日本人学生38名、計63名が参加し、伊達 文香 氏の基調講演に始まり、「教育」 「環境」 「観光」 「防災とリーダーシップ」の4つのテーマに別れての分科会活動、分科会全体報告会を行いました。
3. 熊本を知らう「熊本をさるく」
11月18日に「熊本をさるく」を開催しました。外国人留学生21名、日本人学生7名、高校生15名、計43名が参加し、地域ボランティアガイドと一緒に復旧活動中の熊本城周辺、熊本市中心部を5つのコースに別れて歩き、熊本の歴史や文化について学びました。
その後、熊本市国際交流会館を会場として、学んだ内容について撮影した写真を交えながら、日本語で発表会を行いました。
4. 多文化共生留学生シンポジウム
多文化共生留学生シンポジウムは、12月8日に熊本市国際交流会館を会場として、「留学生に聞いてみよう！～もし私が熊本の宣伝部長なら～」をテーマに開催しました。
当日は、県内各大学の外国人留学生5人がテーマに基づき発表しました。
シンポジウムには、外国人留学生21名、日本人学生15名、関係者を含む一般の方72名、計108名が参加しました。
後半は、毎年恒例となっている日本の伝統行事である餅つきを行いました。外国人留学生、県内大学生及び高校生に地域住民の協力を得て、威勢の良いかけ声のもと、杵と臼を使って迫力ある餅つき体験をし、つくたての餅を味わいました。

<記録写真>



ウェルカムパーティーの様子



「熊本をさるく」の様子



多文化共生留学生シンポジウムでの餅つきの様子

<参加者からのコメント>

Bさん(台湾)/英語標記

熊本城の復旧活動の説明を受け、熊本県民の熊本城への愛着を強く感じました。熊本の歴史もよく分かり、熊本の良さが伝わりました。散策グループの高校生と身振り手振りも加えて楽しく交流ができました。Following the explanation of the restoration activities of Kumamoto Castle, I felt a strong attachment between people in Kumamoto Prefecture and Kumamoto Castle. I understood history of Kumamoto and the goodness of Kumamoto. We also enjoyed interacting with the high school students of our group via body language.

Kさん(日本)/英語標記

国際ボランティアワークキャンプに参加して、多文化共生社会について外国人留学生と深く考えることができて良かった。他国の状況を聞いて新しい世界に一步踏み出せた。It was good to participate in the international volunteer work camp and think deeply with international students about multicultural coexistence in society. I was able to take a step into new worlds by listening to the circumstances of other countries.